

工藤篤子メールマガジン 139号 2009.04.28

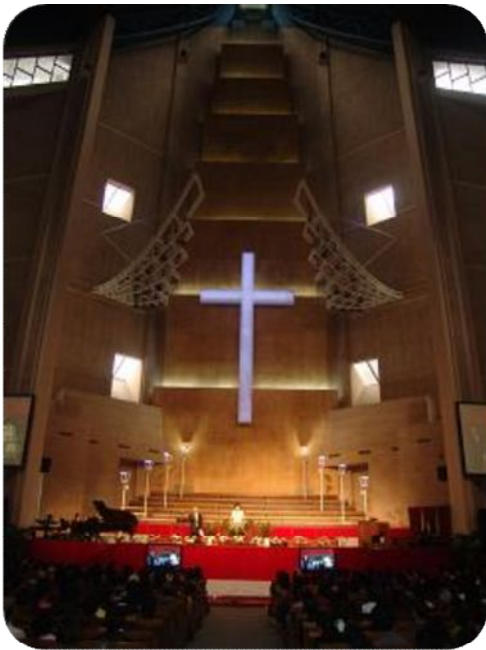
お元気でいらっしゃいますか？

皆さんにお祈りいただいていた喉の調子ですが、その後も痰や咳がなかなか治まらないので、20日ほど前に耳鼻咽喉科に行きました。そうしましたら、それまで風邪の後遺症によるものだと思っていたのが、何と花粉症だったことが分かりました。声帯には全く異常がないのに、鼻炎によって発生する鼻水が喉に流れ込むため、それが固まって声帯の筋肉の働きを妨げ、声が出にくくなっている様子を、鼻孔や喉の奥に通したカメラで見せてもらいました。人の体のデリケートさを思いました。今は、薬の治療のおかげで炎症も治まり、声の調子もすっかりもとに戻りました。皆さんのお祈りに、心から感謝いたします。



●崇一堂 (チョンイー・チャーチ)

4月17日、中国の杭州へ行き、19日(日)崇一堂(チョンイー・チャーチ)、21日(火)思澄堂(スーチェン・チャーチ)にて、賛美コンサートをさせていただきました。コンサートスタッフの中川さんのほかに、やはりAKMMスタッフである、在日中国人の董さんと、台湾出身の荘田さんが同行してくれました。この二人の通訳とオーガナイズのおかげで、私はまるで自分が直接話しているかのような錯覚を覚えるほど、中国の皆さんと親しい交わりをさせていただくことができました。



崇一堂は、2005年に建てられた中国最大の教会で、昨年5月にはフランクリン・グラハムの伝道大会が開催されました。19日の礼拝コンサートには5000人ほどの人が集われましたが、その中には、わざわざ天津、南京、上海から来てくださった方々もおられました。この日、私は主の大きな導きと溢れる祝福を感じながら、賛美し、証しさせていただきました。

今回は、崇一堂での3度目のコンサートでしたが、行かせていただく度に、先生方や奉仕スタッフや賛美チームの皆さんとの回を重ねてきた交わりの中で、霊的に大きく成長している教会の姿を見せていただいています。崇一堂は、祈りとみことばの学びを第一とし、個々の教会員がセルグループに所属し、そこでの分かち合いを大切にしてきました。講壇の真下にある祈禱室では、絶え間なく、何十人もの人々が、ひざまづいたり、ひれ伏して祈っています。私はこの教会を訪問させていただく度に、大きな霊的刺激を受けています。

♥崇一堂・賛美チーム

崇一堂には、約30人ほどの若者たちで結成された賛美チームがあります。賛美チームに入る条件は、教会の奉仕者であることです。崇一堂には900人余りの奉仕者がいますが、学びと訓練を受け、教会の長老たちの認可を受けた人が奉仕者となることができます。主な奉仕はトイレ掃除、庭仕事などですが、そのような奉仕を心から喜ぶするまでに成長した人だけが、賛美チームに入ることができるそうです。で

すから、賛美チームの皆さんは、若いのにとても謙遜で、よく祈り、心からの賛美を捧げる人たちばかりです。

特に数年前から賛美チームをまとめてきたローさんは、輝く笑顔の、愛に溢れた人です。ローさんは、長年、高給エリートとして大企業に勤めてきましたが、昨年その仕事をやめ、現在、神学校に通っています。ローさんの信仰と愛の生き方は、賛美チームのみならず、教会の多くの方々の素晴らしい証しと信仰者のお手本になっています。



礼拝コンサートをさせていただいた日の午後、私は、この賛美チームの皆さんととても幸いな交わりの時を持たせていただきました。そして、最後に賛美チームの皆さんが、私がコンサートでよく歌う「ヴィア・ドロローサ」を、中国語で、しかもとても美しいコーラスをつけて賛美してくださいました。涙が溢れました。また、ひとりの青年が、やはり私が最も頻繁に歌ってきた「神だけが」を中国語で賛美してくれました。次回の訪中では、この2曲を、私も中国語で賛美させていただこうと思っています。

●思澄堂（スーチェン・チャーチ）

21日の夜にコンサートをさせていただいた思澄堂は、2002年の初の訪中で、2曲ほど賛美させていただいた教会です。



町の中心部にある由緒あるこの教会堂は、市の歴史建築物に指定されています。

火曜日の若者のための礼拝時のコンサートということで、前日、教会の先生たちは、一体どれだけの人が集まるかととても懸念されていました。

ところが、この日、2000人が座れる会堂は入りきれないほどの人々で溢れ、下のビデオ室に行かなければならない人が出たほどだったのです。そして、その多くは、若い世代の方々でした。

●中国のリバイバル

現在、中国では、若い世代の人々が、急激な経済変動と世相変動の怒涛の中、精神的なものを求めるようになってきました。そのような中、多くの若者たちが信仰を持つようになってきました。そして、中国の近年の家の教会のリバイバルの火は、今、公認教会にも飛び火し始めたようです。私がコンサートをさせて



いただいた前日、崇一堂の賛美チームが4時間もかけて奉仕に出向いたニンポーの伝道大会では、2000人が集まった中、300人が信仰の決心をしたとのことでした。

地域によって大きな違いがありますが、大都市の多くでは、家の教会が進んで公認教会の傘下に入ったり、公認教会の先生が、教理の学びを必要とする家の教会に出向いて、学びの手助けをするようになってきているそうです。中国では、公共の場で伝道することは許されていません。それなのに、今、多くの中国人がクリスチャンになっています。しかしながら、「中国13億の1億がク

リスチャンになったからと喜んではいけない。救われていない12億の人を見よ。その人たちのために、私たちは涙を流し、ひざまずいて祈るべきである。13億すべてがクリスチャンになるまで、私たちに内住されるキリストを、私たちの生き方と行いをもって宣べ伝えてゆかなければならない。それが主が私たちに託された伝道である。」と熱く語る牧師先生のことばに、これこそ真の伝道であることを思いました。そして、私も自分のうちに内住されるイエス様の姿が大きく見えるように、自我をさらに主に砕いていただかなければならないと思いました。そして、中国人と日本人への救いの祈りの炎を燃やされながら、大阪に戻りました。

●弱いときこそ強い主

中国から戻った後、26日(日)、大阪の堺栄光教会で賛美コンサートをさせていただきました。その2日前、ピアニストの野田さんがインフルエンザにかかって発熱、体中の関節がきしみ、さらには親指を突き指するという大変な状態になりました。多くのとりなしの祈りが捧げられました。そして野田さんは、コンサートで実に感動的な賛美伴奏・演奏をしてくださいました。弱い時にこそ、力強く働いてくださる主のみわざを見させていただいたときでした。



●お祈りください

私の方は、連休中レコーディングをいたします。どうぞお祈りください。また5月の予定のためにも合わせてお祈りください。

5月10日(日) 水口キリスト福音教会主催、母の日コンサート

甲賀市立碧水ホール 14:00 開演 連絡先：教会 0748-62-5933

5月19日(火) 札幌支援者の集い主催 ミャンマー復興支援のためのチャリティー・コンサート

会場：札幌希望の丘教会 19時開演

連絡先：札幌聖書キリスト教会、井口敏明牧師 011-874-6697

5月下旬 帰独

主のあられる祝福をお祈りしています。

工藤篤子

工藤篤子音楽ミニストリーズ

〒541-0041

大阪府中央区北浜 2-3-10

VIP 関西センター5F

「ミッション・宣教の声」方

Tel.06-6226-1334

Fax 06-6226-1336

E-Mail: akmm@atsukokudomm.com

Japanese Homepage: <http://atsukokudomm.com>

English Homepage: <http://www.fgec.de/atsuko>
